

## 活 動 記 録 書

<p><b>開催日：</b> 令和6年5月2日（木） 天候 晴</p>	<p><b>開催テーマ：</b> 和田の里に義盛と一族の伝承を尋ねる</p>
<p><b>開催場所：</b> 三浦市</p>	<p><b>記入者：</b> 熊谷 滋子</p>
<p><b>参加人数：</b> 会員 32名</p>	
<p><b>実施内容（実施の項目、方法、効果・生家、宿題 など）</b>  <b>コース：</b> 三浦海岸駅（集合）⇒ 来福寺 ⇒ 庚申塔群 ⇒ 五劫寺跡 ⇒ ワクリ井戸 ⇒ 神明白旗神社 ⇒ 天養院 ⇒ 和田義盛旧里碑（八雲神社境内）（解散）</p> <p>今回は三浦一族の棟梁大介義明の孫で頼朝の鎌倉幕府立ち上げに功があったことから侍所の別当に任ぜられた和田義盛ゆかりの地を探訪した。</p> <p>集合場所からしばらくだらだら坂を歩き来福寺を訪れる。建永年間（1206～7）に開基和田義盛開山僧祐憲により鎌倉名越に建立されたが、後に和田の地に移転し「和田の乱」で敗れた義盛の菩提寺となった。元は天台宗で浄土宗、浄土真宗と変わって現在に至る。寺宝として義盛自身が鑿を入れたという義盛公の木像、本殿入口の階段の上に波の伊八の彫刻がある。</p> <p>寺の裏の山道を少し登ると広大な畑の中に出てきた。庚申塔群に目を止めつつこんもりとした木立の中にある日枝神社に向う。この地は「塔の台」とも呼ばれる。義盛が信仰する行基作の地蔵尊を祀る地蔵堂があったと言われる。後に承久の乱から生き延びた孫の朝盛がこの地に逃れ高円坊と名乗り一族の菩提を弔い田畑を開墾して余生を送ったとされ地名の由来とされている。神社の前に朝盛を顕彰する碑がある。地蔵堂は大井戸山五劫寺となり寛永年間に浄土真宗に改宗し、大井戸の地に遷されたが明治に廃寺となる。畑の間の道を草をかき分け歩くと「ワクリ井戸」の碑がある。塔の台の山裾にあった湧水は三浦五井のひとつ「大井戸」とも言われ和田の里の田畑を潤した。和田義盛が塔の台の地蔵尊に参拝する時、水垢離をしたと言われる。</p> <p>続いて神明白旗神社。明治以降に編纂された地誌に和田一族が北条一門と戦いをして滅びた建暦3年（1213）から51年後里人が義盛の遺徳を称えて創建したとある。続いての天養院では昇堂して拝観させて頂いた。永禄2年（1559）創建の浄土宗の寺院で、本堂は江戸時代の建立。本尊は阿弥陀如来。行基作と言われる薬師如来は顔からお腹にかけて傷があり、義盛の身代わりになったと言われている。脇侍の日光、月光菩薩と共に県の重要文化財である。他に磨りガラスの天袋には十二神将が並んでいる。</p> <p>最後に和田義盛旧里碑に行く。三浦市和田地区は義盛に関する多くの伝承が残ることから和田氏の本貫地と言われ大正10年に八雲神社の境内に紀州藩家老の家柄で三浦氏の末裔にあたる男爵三浦英太郎により建立された碑がある。ここで解散し近くの和田バス停まで向かう。</p>	
<p><b>参加者の状況・意見など：</b>          前日の雨も止み集合時刻の頃は少々肌寒かったが、お天気も良く気持ちよく歩けた。          坂有り、階段有り、草をかき分けの道有りの探訪であったが、怪我をする人もなく無事終える事が出来て良かった。</p>	
<p><b>次回の予定：</b>          令和6年6月6日（木）10時 京急金沢八景駅集合          テーマ：六浦の寺社巡りと瀬戸神社宮司のお話し</p>	